JAPIC NEWS

7月号 2006.
(No.267)

CONTENTS

《巻頭言》
「個人情報保護法施行1年を過ぎて」 ……2
国際医療福祉大学　大学院長　開原成允
《お知らせ》
「JAPIC医療用医薬品集インストール版2006年7月」7月末発売 ……5
「JAPIC医療用医薬品集インストール版採用品一括登録ツール」配布開始 ……6
「JAPIC一般用医薬品集2007年版」今夏発刊予定 ……6
iyakuSearchトップページ画面変更 ……7
《トピックス》
「理事会」「評議員会」の概要報告／G会員制度について ……8
「125回薬事研究会」報告 ……9
「第8回JAPICユーザ会」開催報告 ……10
事例報告（東京）　iyakuSearch活用事例　ファイザー株式会社　齋藤真紀子 ……11
参加記（Ⅰ）　佐藤製薬株式会社　吉田守宏 ……14
参加記（Ⅱ）　株式会社メディセオ・パルタックホールディングス　柘植典子 ……15
《シリーズ》
東南アジアの医療事情（3）　ラオスの薬事情 ……17
元JICA専門家ラオス教育省勤務　沢田誠二
《図書館だよりNo.193》 ……20
《6月の情報提供一覧》 ……23

財団法人　日本医薬情報センター（JAPIC）

《 巻 頭 言 》

個人情報保護法施行１年を過ぎて

国際医療福祉大学・大学院長

開原　成允（*Kaihara　Shigekoto*）

（JAPIC　評議員）

昨年（2005 年）の夏のことである。ヨーロッパから帰国した時に１万円程度のユーロが手元に残ったので､それを日本円に交換しようと思って取引のある三井住友銀行の赤坂支店に行った。大変驚いたことには、ドルは交換できるがユーロは交換できないので、虎ノ門の交換センターに行ってくれという。 日本の銀行もまだ国際的でないと思ったが、仕方がないので虎ノ門のセンターへ行ってユーロを交換してくれるように頼むと、まず申込用紙に名前、住所、電話番号などを書けという。

個人情報保護法施行以来､個人情報は必要ない場合には提供するべきでないと言われているので、私は再び驚いて、なぜ外貨を交換するのに名前や住所が必要なのかと聞いた。多くの読者はご存知だと思うが､欧米諸国で外貨を交換する時には､名前を書かされることはまずない｡また、日本でも、私は出国するときに成田空港の「りそな銀行」で日本円を外貨に交換したが、そのときは名前を書く必要はなかったし、東京駅にある外資系の外貨交換所では、何も聞かずにすぐ外貨を交換してくれる。それにもかかわらず、三井住友銀行の外貨交換所では、名前を書かなければならないという。私は、名前を書くか書かないかはこちらの任意だと思ったので、「最近は個人情報を悪用されることもあるから、私は書かないことにしたい」と言った。すると、窓口の人は、私が名前を知られたくない悪人とでも思ったのか、書かなければ交換しないという。私は、日本社会における個人情報保護法の理解がどのようなものかが興味が出てきたので、「個人情報を要求する時は、個人情報保護法によればその理由を開示しなければならないはずであるが、その理由は何か」と聞いた。そうすると先方の答えは、「もし、あとで間違いがあった時に連絡しなければならないからである」という。私は、「別に連絡してもらわなくてもいいから」というと、今度は、「そのことが社内規定である」という。そこで、それではその社内規定を見せてくれないかというと、それは見せられないということであった。

私も、これ以上、議論するのは止めることにしたが、ここで先方のいうことに従ってはこちら

の主張が誤りになるので、「三井住友銀行では、名前を書かないと外貨を交換しない」ということを一筆書いてほしいと頼んだ。しかし、先方はそのような文書も書けないというのでついにここで交換することは諦めて東京駅の交換所で外貨を交換した。主義を通すのも大変であった。実は、これには少し後日談があるが、それは別にして、私は、今回の経験から日本社会の特殊性を垣間見た感じがした。

私は、医療情報を 30 年以上専門にし、また保護法の議論がはじまった頃に、内閣府の内政審議室の個人情報保護の委員として個人情報保護法の問題にかかわりをもったので、個人情報保護の問題について強い関心がある。最近の病院では、患者さんの個人情報をいかにして漏洩しないようにするかに非常な努力をはらっており、時に過度に神経質になっているような感じがすることさえある。しかし、漏洩防止よりも、もっと重要なのは、必要ない場合に個人情報を与えないことであり、また集めないことである。与えたり集めたりしなければ漏洩することがないのは当たり前のことであろう。

ところが、日本社会には、昔からいろいろな場合に名前や住所を書かせる習慣がある。たとえば、新幹線の切符を買う時には、申し込み用紙には名前や住所を書く欄が今でも残っている。さすがに、名前を書かなくても切符は売ってくれるから、この紙は有名無実になっているが、旅行代理店で切符を買うときは、今でも名前や住所、電話番号を書かされる。この時なぜ名前が必要かと聞くと、通常帰ってくる答えは、もし間違ったときに連絡するためであるというものである。一見、お客に対して親切なような印象を与えるが、実際に連絡するケースはまったくといってもいいほどない。

私が、日本社会が特殊だと思うのは、日本社会ではものごとを合理的に考えてその方向に改革していくことが非常に遅く、これまでの習慣がなかなか変えられないという点である。必要もないのに、わずかな外貨の交換のために、正確であるかどうかもわからない個人情報を集め、ただ保管し、結局は廃棄するのは費用もかかるであろうし、誰がみても不合理である。他の銀行はやっていないのであるから、必要ないのは明白であるし、これによってサービスが向上するわけでもなく、逆にお客に不要な負担をかけている。しかし、こうしたことが長い間行われていると、監督官庁から注意されるか、不祥事でも起こらないと自主的に変更されることはない。大企業ほどこの感じが強いが、この点薬業界はさすがに国際化しているから、中の方々は大変だろうと思うが外から見ていると気持ちがいい。

第二に特殊だと思うのは、常に相手のためにやっているという一見親切にみえる理屈がついている場合が多い点である。相手のことを思って権威的にふるまうことをパターナリズムというが、

日本社会はまさにパターナリズムに満ちている。医療も、行政も、司法も、企業も、需要者側の論理ではなく、供給側の論理で動いている。しかし、それが一見需要者のためを思っているような形をとるから始末が悪い。

個人情報保護法が施行されて以来、個人情報に対する扱いはかなり慎重になり、電話による売り込みなども減ったのは喜ばしい。しかし、せっかく、これだけ慎重に扱うようになりながら、いろいろなところで皆が不必要に個人情報を提供していたのでは、何の意味もない。個人情報を書かせて集めている側も、本当に必要かどうかを一度見直すべきである。 また、これからは　われわれも、不必要に個人情報を書かされるようなことがあれば、大いに抵抗するべきであると思う。これが本当の意味での個人情報保護の精神ではないかと私は思っている。

Information お知らせ

“JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2006 年 7 月”

<一般用医薬品データ・薬剤識別コード一覧・薬価情報収載>

7 月末発売！

皆様にご利用いただいている“JAPIC 医療用医薬品集インストール版”（CD-ROM）の“**2006 年 7 月版**”を 7 月末に発売いたします。

本 CD-ROM（Win・Mac 両対応）の仕様は次の通りです。

★収載データ

・**医療用医薬品データ**：2006 年 7 月上旬までの JAPIC 医療用医薬品添付文書情報・薬剤識別コードデータ及び**平成 18 年追補収載を反映した薬価データ**を収載

・**一般用医薬品データ**：**2006 年 3 月調査**に基づくデータを収載

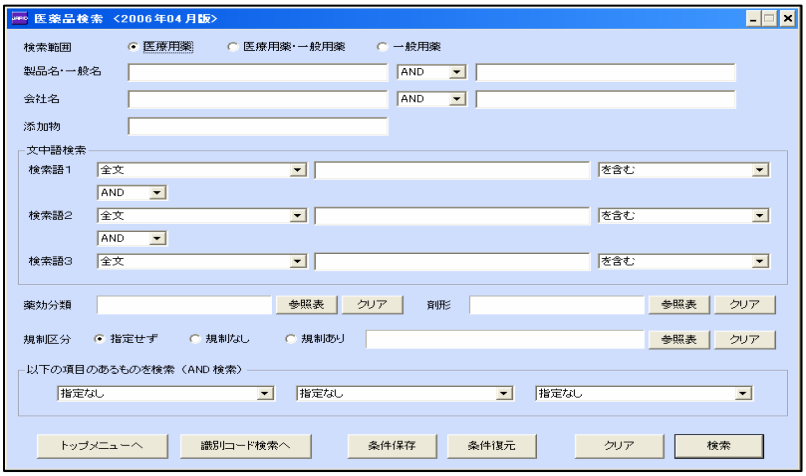
★搭載機能

自由語検索として医療用薬、一般用薬、その両方の同時検索機能及び（医療用薬）薬剤識別コード検索機能を搭載し、該当する医薬品集収載様式に基づく**添付文書本文情報**を表示することができます（表示内容に**構造式イメージ、医療用医薬品添加物データを追加、参考情報として iyakuSearch 収載医療用薬添付文書 PDF のリンク・表示機能を搭載）。**

また、医療用医薬品本文内容を取り込んで**院内採用医薬品集**として編集でき、その編集内容を共有あるいは次版へ引き継ぐことができます。今版より最新データ一括読込機能を搭載しましたので、更に作業の省力化が図れるようになりました。

★価格・お申し込み

1 枚 15,000 円（税・送料込）、あるいはお得な年間セット（1・4・7・10 月版のセット）を 25,000 円（税・送料込）で提供いたします。また、複数台をお申し込みの方は廉価で提供いたします。購入ご希望・お問い合せは、事務局 業務・渉外担当（TEL：03-5466-1812、FAX：03-5466-1814）までご連絡下さい。



“JAPIC 医療用医薬品集インストール版 採用品一括登録ツール”配布開始!!

皆様にご利用いただいている“JAPIC 医療用医薬品集インストール版”（CD-ROM）の導入強化ツールといえる**“JAPIC 医療用医薬品集インストール版 採用品一括登録ツール”の無償配布**を開始いたしました。

ご要望の多かった，**他のソフトウェアで管理している医薬品を**“JAPIC 医療用医薬品集インストール版”から**取り込み利用する**ためのツールです。YJ コードリストを出力させ，該当医薬品を採用品として一括して追加登録できます。これにより採用品データの一括登録が可能となり，**データの共有または移行の作業負荷が大幅に軽減され**ます。

本ツールは JAPIC ホームページからダウンロード可能です。JAPIC ホームページ TOP ページの上部リンク“サービス内容”“出版物”の“JAPIC 医療用医薬品集インストール版”にリンクがあります。どうぞご利用下さい。

“JAPIC 医療用医薬品集インストール版 採用品一括登録ツール”仕様

対象 OS：JAPIC 医療用医薬品集インストール版が起動する Windows

対象ソフトウェア：JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2006 年 1 月版以降

ダウンロードサイズ　約 160KB

国内流通一般用医薬品を網羅する「JAPIC 一般用医薬品集 2007 年版」今夏発刊予定!!

「JAPIC 一般用医薬品集 2007 年版」（青ジャピ）を来る **2006 年夏**に発刊する運びとなりました。これまで「一般薬日本医薬品集」として、JAPIC 編集・㈱じほう発行で隔年発刊しておりましたが、今版より JAPIC が独自に編集・発行することといたしました。今夏発行の**「JAPIC 一般用医薬品集 2007 年版」**においては独自発行の利点を生かし、これまでより**低価格**でご提供できる予定です。詳細は決まり次第本誌あるいは JAPIC ホームページ等でお知らせいたします。

「JAPIC 一般用医薬品集」の特徴は次のとおりです。

・毎年実施している一般用薬調査において収集した **2006 年 3 月時点**における最新一般用医薬品情報**約 12,000 製品分を**収録。（調査にご協力いただきました各製薬メーカー様に改めて御礼申し上げます）

・従来の網羅性を引き継ぐだけではなく、**資料面においても最新のもの**に更新しております。

iyakuSearch トップページ画面変更のお知らせ

iyakuSearch は JAPIC が提供する国内外の医薬品情報に関するデータベースで、以下の情報を提供しております。

1. **医薬文献情報**
2. **学会演題情報**
3. **規制措置情報**
4. **医療用医薬品添付文書情報**
5. **一般用医薬品添付文書情報**
6. **臨床試験情報**
7. **新薬承認審査報告書**

【開発中画面につき実際と異なる場合がありますので、ご了承ください】

これらの情報は一般の方にも開放し、ご利用いただける形にしておりますが、「規制措置情報」は JAPIC Daily Mail 利用者向けに公開しており、一般の方は利用することができません。

そこで、一般の方が利用できるデータベースを見やすく、また規制措置情報データベース利用者の便宜を勘案し、iyakuSearch トップページ画面に「規制措置情報」バナーを設け、アクセスアイコンとして独立させることで一般の方も利用しやすく、また規制措置情報データベースへもアクセスしやすい画面構成に変更いたしました。

＜規制措置情報データベース＞

JAPIC Daily Mail（JDM）は、海外および国内の規制当局のホームページ（約 80 サイト）から医薬品および医療機器の安全性に関する規制情報を電子メールにより即日、日本語で提供しているサービスです。2004 年 1 月提供分から、電子メール配信した情報をデータベース化して提供しております。

本データベースは JDM 利用会員専用のデータベースです。JDM は有料サービスとなっており、別途お申し込みが必要です。JDM の詳細につきましては、JAPIC ホームページまたは JAPIC 事務局 業務・渉外担当までお問い合わせください。

事務局業務・渉外担当 TEL. 03-5466-1812　FAX. 03-5466-1814

TOPICS トピックス

「理事会」「評議員会」の概要報告

さる 5 月 19 日(金)に第 103 回理事会，22 日(月)に第 19 回評議員会を開催いたしました。それぞれの議題は以下の通りであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

役員の異動では、副会長の交代がありました。

そして、今回の主な議題でありました、平成 17 年度事業報告・決算報告においては、事業及び決算ともに順調に推移していることをご報告させていただきました。平成 17 年度事業報告・決算報告は、先般会員の皆様へお届けいたしました。

○「第 103 回理事会」　　5 月 19 日(金) 16:30～17:20，当センター3 階会議室

《議　題》

1. 役付理事及び常勤役員の選任
2. 維持会員・賛助会員の異動承認
3. 平成 17 年度事業報告の承認
4. 平成 17 年度決算報告の承認

○「第 19 回評議員会」　　5 月 22 日(月) 16:30～17:25，当センター3 階会議室

《議　題》

1. 理事の選任
2. 平成 17 年度事業報告の承認
3. 平成 17 年度決算報告の承認

【役員の異動】　(※敬称略)

《副会長》

退 任：櫻井 秀也　(前 日本医師会 副会長)　　5 月 22 日付

新 任：竹嶋 康弘　(日本医師会 副会長)　　5 月 23 日付

G 会員制度について

医療機関会員の種類としては D､E､F がありますが、本年 4 月より新たに診療所・薬局等小規模機関を対象とした G 会員をスタートさせました。JAPIC の情報をより多くの方々にご利用いただくことを目的に入会しやすい料金を設定しました。現在関係機関の方々に広くご案内させていただいております。該当機関の方々にご紹介いただけましたら幸いです。詳細については事務局・渉外担当までご連絡ください。

第 125 回薬事研究会報告

5 月 29 日(月)、東京ニッショーホールにて第 125 回薬事研究会を開催いたしました。今回のテーマは「GMP 調査」で、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（総合機構）品質管理部長の新見裕一氏と同品質管理部 GMP エキスパート　平松勝太氏よりご講演いただきました。

テーマが「GMP 調査」についてということ、および日本製薬団体連合会を通じて会員・一般にお知らせいただいたこともあり、参加申込は 780 名にのぼりました。会場は満員の状態で、一部の参加者にはロビーで聴講していただくことになり、ご迷惑をおかけいたしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

さて、当日の講演内容ですが、新見氏からは「医薬品医療機器総合機構における GMP 調査について」お話いただきました。総合機構における品質管理部の位置づけ、組織について、GMP 関連調査業務内容については旧薬事法における許可要件調査と新薬事法に基づく承認要件調査、輸出届出に伴う適合性調査に分け、調査の流れ、留意点等を含めて解説されました。さらに国内外における構造設備適合性調査業務、そのほかの立ち入り検査等を含む調査業務、みなし製造業者の許可更新に当たっての留意点等について解説されました。

平成 17 事業年度における新薬事法に基づく調査処理件数は、医薬品では 53 件、体外診断薬 9 件、医療機器 32 件で、現在調査中のものは合計 236 件であるとのことでした。17 年度上半期は申請がほとんどなく、後半の 18 年年明けから増えてきたそうで申請から通知までの期間は以前に比べ、2 ヶ月ほど早くなっている。この理由は優先処理品目が多かったため、調査日程を申請側の日程にかなり合わせたことによると説明されていました。

（満席のニッショーホール会場）

また海外製造所等に対する実地調査は平成 17 年 10 月から 18 年 5 月までに医薬品 14 件 17 施設、医療機器 11 件 11 施設で行い、地域別では北米 17、欧州 8 施設、中米 1、アジア 2 施設であったとのことです。構造設備調査業務についても実績を交えながら説明され、最後に GMP／QMS 調査に関する相談業務を 18 年度のなるべく早い時期に開始したいこと、当面は有料で手続き相談業務のみに内容は限ると紹介されていました。

次に平松氏より「GMP 調査を受けるにあたっての留意点」について講演がありました。内容は国内外における実地調査における留意点と実際に指摘した事項についての説明でした。留意点では実地調査における事前提出する資料、当日の資料および書面調査における提出資料等について説明されたあと、管理監督、構造設備、製品原料資材保管等、製造、包装表示、試験検査の各サブシステムに関する項目別に実際の指摘例について紹介されました。製造サブシステムに関する項目では原料管理の不備、製造にかかわるコンタミ、異種混入防止策が不十分、製造作業手順に係わる問題、衛生管理上の問題、製造区域での各種表示の不備、無菌製造における無菌保障の問題、製造用水の管理が不十分、輸送上の問題、出納記録の不備等がその指摘内容でした。

なお、第 125 回薬事研究会講演内容の詳細は「JAPIC J」No.7（11 月発行）に掲載する予定です。

第 8 回 JAPIC ユーザ会を開催しました

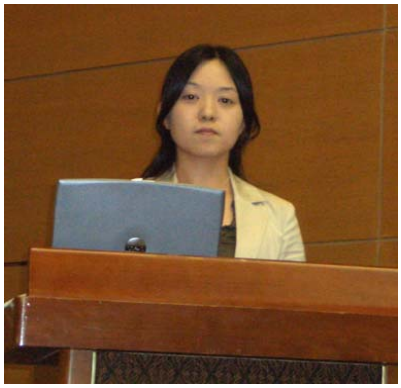
「第 8 回 JAPIC ユーザ会」を 6 月 7 日（水）東京、6 月 9 日（金）大阪で開催しました。ユーザ会は JAPIC の会員機関の皆様とのコミュニケーションをはかることを主目的として年 1 回東京と大阪で開催しております。今年度は東京 113 名、大阪 51 名のご参加をいただきました。JAPIC からは平成 18 年度の事業計画と重点事業についてご説明しました。今年度は昨年からの事業を継続・発展させてまいりますが、今後は研究開発から市販後の適正使用まで医薬品情報に関する幅広い情報センターを目指し、情報提供のあり方も電子媒体へシフトさせていく方針をご説明しました。更に「iyakuSearch」から提供している各種 JAPIC データベースおよび JAPIC-Q サービスについて担当者から概要説明を行いました。また（財）日本公定書協会の櫻井靖郎氏には「MedDRA 及び MedDRA/J 概要と最近の動向」についてご講演いただきました。

ユーザ会では毎回 JAPIC の会員機関の方に「JAPIC 情報活用事例」をご紹介いただいておりますが、今回は東京ではファイザー（株）の齋藤真紀子氏、大阪では（社）兵庫県薬剤師会の藪下圭子氏にお話いただき、参加者からは大変参考になった、感銘を受けたとの声が多数寄せられました。講師の先生、当日ご参加の皆様に誌面を借りて御礼申し上げます。東京については次頁以降に掲載しましたのでご覧ください。また、大阪開催の内容は 8 月号に掲載する予定です。また特別講演の「MedDRA」については JAPICJ に掲載予定でおります。

「iyakuSearch の活用事例」 －JAPIC 情報活用事例－

ファイザー株式会社　東京ﾒﾃﾞｨｶﾙｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ
齋藤　真紀子

1. はじめに



ファイザー株式会社の本社情報センターである東京メディカルインフォメーションセンター（呼称ティーミック；以下 TMIC）は、2005 年 2 月に本社スタッフおよび営業部門に iyakuSearch を公開し、この 1 年で iyakuSearch を文献情報検索ツールとして社内に浸透させた。その導入と活用について、事例を中心に紹介する。

2. iyakuSearch の導入

2.1 導入検討と準備

TMIC は、ユーザが利用できる電子リソースを充実させることと、無料で利用できる電子リソースについて積極的に利用促進をサポートすることによりコストを削減すること、の 2 点を目的として 2005 年 1 月 iyakuSearch 導入検討を開始した。導入対象は本社スタッフおよび営業部門（MR）とし、TMIC サーチャーに加えてエンドユーザも対象とした。

TMIC で行った導入準備としては、導入研修の実施計画、説明 WEB ページの作成、登録方法と利用マニュアルの WEB 掲載、自己学習用パワーポイント資料の作成などがある。

2.2 iyakuSearch の普及

2005 年 2 月 iyakuSearch の使用を開始した。以下にその普及のための工夫を述べる。

①研修

データベース利用を普及させるためには研修が必要である。iyakuSearch 導入時は対象ユーザを分けて研修を行った。TMIC スタッフであるサーチャー対象研修 1 回、本社ユーザ対象研修 3 回、MR 対象研修として、トレーナー研修 1 回、導入研修 2 回、フォローアップ研修 7 回を実施した。継続研修は、今後年 1 回実施を予定している。

②説明 WEB ページ作成

2005 年 2 月 iyakuSearch の使用開始と同時に、TMIC イントラネットサイト内に「iyakuSearch 説明ページ」を立ち上げた。掲載内容は以下のとおり。

利用にあたって：社内利用、「複写 BOX」使用禁止

概要：分野、特徴、情報源、収録期間、更新頻度、発行者、使用言語

アクセス方法：WEB 登録方法資料を掲載。各自で会員登録申込。

使用方法：自己学習用パワーポイント資料を掲載。

問合せ先：JAPIC ヘルプデスクを案内

2.3 iyakuSearch の利用状況

iyakuSearch の弊社利用登録者数は、2006 年 4 月 18 日現在で 1,793 名である。

アクセス数は JAPIC では公開されていない。そこで TMIC イントラネットサイト内にアクセス数のカウントシステムを構築し、TMIC の「iyakuSearch 説明ページ」から JAPIC の「iyakuSearch トップページ」へのアクセス数をカウントできるようにした。集計の結果、2005 年 2 月から 2006 年 4 月現在までの「iyakuSearch トップページ」へのアクセス数は約 7,000 アクセスであった。WEB アクセス数の推移は、2005 年 2 月 iyakuSearch 導入時、研修の成果もあり同月で 1,551 アクセス、その後 3～6 月は月約 200 アクセスであった。7 月は MR 向け継続教育を行った結果、MR のアクセス数が増え、同月で 1,773 アクセスであった。その後、今年度 2006 年 1～4 月では月平均 300 アクセスとなっており、iyakuSearch が社内でよく利用されていることが明らかになった。

3. iyakuSearch の活用事例

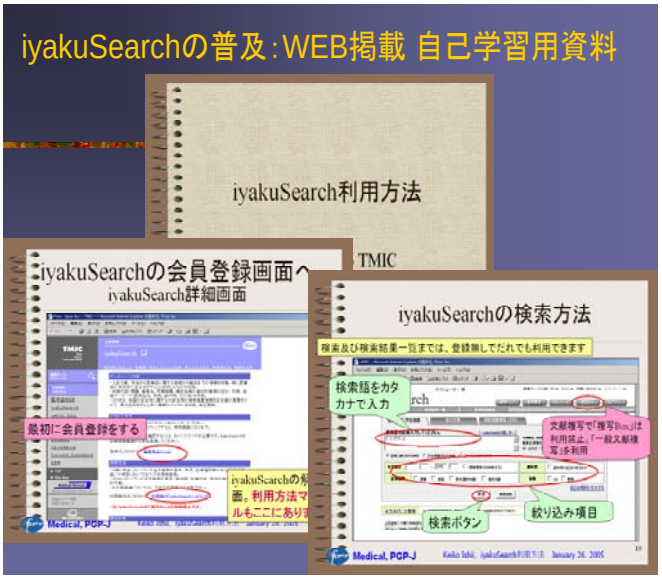
3.1 文献データベースの利用比較

弊社で契約している国内医学系文献情報データベースとしては iyakuSearch、医中誌 WEB、JAPICDOC、JMEDPlus がある。利用公開範囲は、営業部門（MR）、本社、TMIC サーチャーの 3 つに分けており、この 3 者全てに利用公開をしているのは現在のところ iyakuSearch のみである。iyakuSearch は JAPIC 会員が無料で利用できることから全ユーザに公開することができた。医中誌 WEB は固定料金契約をしているが同時アクセス数に制限があるため営業部門への公開はしていない。JAPICDOC および JMEDPlus は従量課金制の契約であるため、専門知識のある TMIC サーチャーが複雑な検索をするためのツールとして使用している。

3.2 MR による利用

MR は「iyakuSearch」を自己学習用の文献検索ツールとして使用している。「iyakuSearch」を利用して思いつくキーワードから簡単に文献を検索し、自己学習に役立てることができる。活用事例としては下記のような場面がある。

- 担当ドクターの学会発表を調べ情報収集をしたいときに「XX 大学○○先生の学会発表」という検索をする。
- 自分の勉強のために競合品の最新文献を調べ動向を知りたいときに「競合品△△（医薬品名）の 2006 年の文献」という検索をする。



3.3 情報センターにおける利用

情報センターでも「iyakuSearch」はよく利用するツールの一つである。無料で信頼性の高い情報を検索できることが魅力である。活用事例を以下に述べる。

①基本調査資料としての利用

・医薬品情報検索

国内の医薬品情報検索データベースとしては第一選択肢。ただし検索フィールドを限定しないシンプルな検

索に有用である。たとえば、「網羅性は問わず、ある医薬品の総論や新しい文献情報が知りたいとき」や「指定された著者の文献をいくつか知りたいとき」などである。

フィールド指定が必要な検索には「JAPICDOC」を使用する。

・学会情報

学会発表で詳細が不明の場合の書誌事項確定に便利である。

たとえば、「XX 大学の○○先生が日本薬学会で発表した発表演題と発表年月を知りたいとき」や「日本薬理学会で医薬品 A に関する発表があったと聞いたが詳細を知りたいとき」などに利用できる。

・添付文書情報

医療用と一般用添付文書を合わせて検索ができる。

②予備調査資料としての利用

有料データベースを調査する前の予備調査としても活用できる。テーマの該当件数を確認して検索方針を策定したいときに便利である。

たとえば該当件数が多いときは、絞り込み機能を活用して、対象を「ヒト」に限定する、記事種類を総説で絞る、発行年で絞る、ということがチェックボタンで可能である。ヒットした内容を全て出力し、検索方針が正しいかどうかを確認することも出力料金がかからないために可能だ。逆に該当件数が少ないときは、エキスパート検索の入力支援機能を使い、関連語を確認、追加できる。例としては医薬品索引、疾病索引などがある。

③検索初心者用資料としての利用

本社ユーザのような検索初心者に対して、「簡単」に「無料」で「質の高い」情報が「自分で」検索できるデータベースとして紹介している。

3.4 メリットとデメリット

iyakuSearch 利用におけるメリットとデメリットを以下のようにまとめた。デメリットとして挙げた iyakuSearch にない検索機能でフィールド限定、履歴検索、SDI、データのダウンロードなどは、サーチャーだけでなくエンドユーザにおいても利用要望が高く、今後機能が追加されればより活用範囲が広がると考えられる。

メリット：無料（料金を気にせずに検索できる）

・ データの信頼性（有料データベース「JAPICDOC」と同一データ）

・ 検索画面がシンプルで検索初心者でも使いやすい

・ 入力支援機能

デメリット：検索機能が少ないため複雑な検索ができない（フィールド限定、履歴検索、SDI、データのダウンロードなど）

4. おわりに

最後に、今後より一層 iyakuSearch を活用していくために、ユーザとしての要望を挙げる。まず第一に検索機能の追加である。JAPICDOC との差別化はあると思うが、利用要望が高いフィールド限定機能や履歴検索機能は是非追加を検討いただきたい。また正確なユーザ利用状況を把握するために、ユーザアクセス状況の公開を希望する。そして、今後もユーザへの継続的な教育は不可欠であるので研修実施に協力をお願いしたい。

JAPIC ﾕｰｻﾞ会（東京）参加記-I

科学に基づいた情報提供

佐藤製薬株式会社　安全性管理部　吉田　守宏

「もう１年たってしまったか」などと想いながら、坂道をだらだら歩きながら長井記念館に向かう。私が医薬品の製造販売後安全管理業務に携わって約 1 年。昨年も JAPIC ユーザ会に参加していました。何も分からずに「こういう世界と係わって仕事するのかー」とアホな感想。1 年たった今、多くの講習会等に参加して多少成長しての参加でした。

前半は JAPIC の平成 18 年度事業計画と iyakuSearch のトピックスの説明でした。事業計画では医薬研究開発情報の取り組みとして、「臨床試験結果の公開システム」でのデータ受け入れ、情報公開を促進。一般用医薬品情報の提供と検討。「医療用医薬品集」、「添付文書記載病名集」、iyakuSearch、「日本の新薬」の発行・データベースの普及やその他サービスの充実など、６つの柱を示された。一般用医薬品情報の充実は大変興味深いが、製品数が非常に多く一山いくらの寄せ集めにならないか心配でもある。また、「添付文書記載病名集」という何だか分からないタイトルでは、この便利な内容の良さが伝わりにくい感じがして残念です。

iyakuSearch のトピックスは、ここで私が何か書くより、実際に皆様が iyakuSearch を触ってみることが一番です。誰でも利用でき、データの信頼性と使いやすさ。そして嬉しい無料。私のように、専門知識が全くなくても、少々の薬の知識があれば「チョイト調べてみるか」と気軽に検索する気になれるところが大変よろしい。ただ、会員限定の規制措置情報は別にしたらいかがだろうか。

コーヒーブレイク後、iyakuSearch の活用事例をファイザー社、齋藤真紀子氏から講演を賜りました。iyakuSearch 導入の対象者が MR も含まれ、導入研修の回数の多さに驚かされた。裏を返せば、苦労しても導入する価値のあるデータベースということである。実際の企業の事例だけに、興味深く拝聴した。

続いて JMO 櫻井靖郎氏から「MedDRA 及び MedDRA/J　概要と最近の動向」というテーマで、MedDRA 開発の経緯から MedDRA の特徴等、いつものように歯切れよい話し方で、分かりやすい言葉で講演していただきました。

通常の参加記ではプログラム終了。チャンチャン。となるところだが、この後には懇親会があり、JAPIC スタッフと歓談。堅い人が多いと思ったら大間違い。少しアルコールが入ると､理事長をはじめとして熱く語る人が多いこと。「濃い」キャラの人が多いようです。ここ数年のスピーディーな JAPIC の事業展開を実現しているのは、この「熱さ」がエネルギーの源になっているのであろう。最近マスコミに煽られて財団法人＝悪、的に批判されているが、何でも民営化、どしどし財源削減、スリスリ国民でよいのだろうか。少なくとも JAPIC にこの批判はあてはまらない。この稿を書くにあたり、過去の JAPIC NEWS をつらつら眺めていた。平成 16 年度の決算報告では、単に財務諸表を掲載するだけでなく、労働生産効率や「100 円稼ぐための費用」を解りやすくグラフにして掲載されていた。これなどは JAPIC の透明性の高さを示す一例であろう。

話は変わるが、6 月 14 日に富山県に行った（ヤバイ、本稿締切り 2 日前だ）。もちろん仕事。空港からタクシーに乗って神通川を渡った。流れは速いが綺麗な水で、河原に下りて遊びたくなるような川でした。こんな美しい川に、イタイイタイ病という影があるとはとても思えなかった。当時日本は、政策に都合が悪い事は隠す。もっと早く情報公開して対策を打てば、被害は最小化できたと思われる。と言っても、ここ数年のニュースを見ていると情報公開が進んだとはいえ、この体質は相変わらずのようだ。

企業としての安全対策は、コストと時間と人手がかかり、会社にとって面倒なことと考えられなくもない。しかし、情報公開時代の今、情報を隠してバレた会社は、信頼を失い衰退してしまう。医薬品の安全管理に携わる人間は、企業の「転ばぬ先の杖」的な業務で、あまり注目されないが、私たちの判断が会社の良心である、と自負している。情報収集し判断を下す我々は、質の良い情報を選択することが大事であるのは言うまでもない。

情報は言葉を集めただけでは物事の本質を表しきれないこともある。化学物質は人の病気の原因になりうるが、医薬品は紛れもない化学物質である。医薬品の場合、『情報提供側は科学に基づいた情報を提供する。』という哲学がないと、単なる情報（言葉）の寄せ集めになってしまう。JAPIC の「医療用医薬品集」は構造式を掲載しており、最近の JAPIC の読み物には構造式が登場しているものが多く感じられる。これは、JAPIC が科学として医薬品をとらえ、情報提供していると考えてよいだろう。

随分と JAPIC を誉めてしまった。私と JAPIC の付き合いは続いてゆく。情報化社会はますます進んでゆくが、JAPIC がどんな事業展開をしてゆくのか楽しみだ。

JAPIC ﾕｰｻﾞ会（東京）参加記－Ⅱ

情報の新鮮さと正確さ

株式会社メディセオ・パルタックホールディングス
薬事情報部　専任部長　柘植　典子

北海道の㈱クラヤ三星堂から九州の㈱アトルまでをグループとするメディ・パルの医薬品関連の情報を担当しております。支店の管理薬剤師を経験し、情報を担当する立場になって 7 年になりますが、その間、製薬企業のＤＩがあれば医薬品卸のＤＩはいらないのでは？という問いかけによく遭遇しました。しかしながらこのことが真実であれば「iyakuSearch」の存在を否定することになります。病院・診療所・薬局という医療の現場では、製品名を特定することのできない問いが非常にたくさんあります。弊社は多品目の多種類の医薬品をはじめとする情報を収集し、データベース化し、バイアスの無い情報として、医療の現場で活用していただくために、冊子体とインターネット等により積極的に情報提供しております。販売会社ではありますが、情報を取り扱う立場としては財団法

人日本医薬情報センターさんに非常に近いと考えております。

そういった面からも、医薬品を中心とする信頼性の高い情報が、迅速に正確に高い網羅性を持って病院・診療所・薬局の方々に活用していただける「iyakuSearch」のスタートを平成 16 年発足当時より心から喜んでおりました。しかも平成 17 年には一般用医薬品の添付文書の掲載もスタートされ、データ数が 8,000 件もあり、医療用医薬品の添付文書との横断検索も可能で、まさに的を射た機能をもつことにも感激しております。さらには「日本の新薬」データベースの公開も近く予定されているとの情報もいただきました。

医療の現場にいらっしゃる方々がご自身の言葉で検索し、解決のヒントや糸口を迅速に見出し、しかも無料で使えるという点は、弊社のインターネット情報サイト「e-mediceo.com」に通じるものがあります。「e-mediceo.com」のアクセス数の増加は、情報提供する立場にある者にとって、評価の証しであると感じておりますので、「iyakuSearch」を担当されていらっしゃる皆様も同じ気持ちでお仕事に取り組んでいらっしゃるものと推測いたします。私がお会いする機会のある病院や診療所・薬局の先生方には、「iyakuSearch」のご紹介を併せ行い、普及活動に協力させていただくことをお約束いたします。

「iyakuSearch」の活用事例として、ファイザー株式会社ＴＭＩＣでの導入や活用について発表していただきました。自社製品や競合品や関連疾患の最新の情報を MR さんご自身で検索されるツールとして導入されるにあたり、的確な目標を定め、研修のみならず、いろいろなサポート体制を確立されていらっしゃることをお聞きし、大変ためになりました。また、MR さんの自己学習に役立てるのみならず、本社部門でも、有料文献 DB の予備調査に活用する等の業務効率化と、コスト削減効果をパラレルに可能とされた例は、是非、参考にさせていただきたいと思っております。

特別講演では、財団法人日本公定書協会の櫻井先生から「MedDRA 及び MedDRA/J 概要と最近の動向」について大変、丁寧にご説明いただきました。一緒に聴講させていただきました弊社 PMS 推進部のメンバーからのメッセージです。

『カレントフラッグやプライマリーSOC といった MedDRA 独特の用語の内容について、グリーンブック等に記載されている以外の言葉で説明していただけたため、とてもわかりやすかったです。また、次回のバージョンからは○○の増悪等の修飾表現を持つ用語が増えるなど、具体的な事例をあげて、メンテナンスがされていくということで参考になりました。ありがとうございます。現在、アメリカでは SNOMED を使用する傾向がみられるということを教えていただきましたが、それを受けて各国の動き等がわかっているのであれば教えていただきたかったです。たくさんの人の前で質問させていただくのは、緊張のあまりできませんでした。』

ＰＭＳ推進部ではＭＳの病院・診療所・薬局への訪問頻度の高さを活用し,医薬品などの有効性や安全性の収集と該当製薬企業への報告を行っております。添付文書に記載されていない報告は 20%を超えております。医薬品の適正使用に力を尽くしたい思いは薬事情報部と同様に強く感じております。

最後に JAPIC 添付文書情報を購入し利用している立場から、「情報の正確さと新鮮さ」のために今後も継続して協力させていただきます。医療に関わる方々のために、健康を願う人々のために最高のレベルの医薬品情報提供者としてのご活躍を期待しております。

ラオス薬事情　- 医者、病院、製薬-

沢田誠二　（元 JICA 専門家ラオス教育省勤務）

e-メール　sssawada@mvd.biglobe.ne.jp
ホームページ　http://www5e.biglobe.ne.jp/~higeji-/laos/
http://homepage2.nifty.com/DEFC/

ラオスに海はないのですが塩が湧き出しているところがあちこちにあり、そこでは天日製塩をしています。なかなかおいしいこの塩はヨード添加されて売られています。田舎で出遭った母親は 4－5 歳の女の子連れで野菜の行商をしていました。 1 日の稼ぎ 100 円は“この子の甲状腺腫（ゴイター）の手術費用にする、金が出来るまでまだ 1 年以上かかる･･･”と言っていました（**写真** 1)。今回は医者や病院、製薬企業のお話です。

ラオスの山岳僻村に近代医療はありません。薬屋へ歩いて数時間、最寄りの郡や県病院へは 1～2 日かかるところもあるのです。

保健省は居住地医療として「First Aid House、緑の屋根の家」を 3 村に一つの割合で作ろうとしています。保健師と普段一番使われる薬である下痢やマラリア、汎用抗生物質などを置き、さしあたっての手当てをするところです。しかし、おきまりの資金不足で計画は遅れています。

（写真 1）

医者がいる末端は郡病院です。私が訪れたことがあるのは 2 ヶ所だけ、一つは立て込んだ市場の近くにありました。かなり広い木立の間に数棟の平屋の入院棟があり、これも平屋の小さい診察棟が並んでいます。待合室は 5 メートル四方ほどで 2 方は壁の無い屋根付きの涼しい空間、板壁にはマラリアや寄生虫予防、家族計画のポスターが貼ってあります。体温計、血圧計、身長計などがあり、体重計は日本で昭和 20-30 年代に使っていた分銅式の置き秤でした。もう一つの郡病院はもっと小さい町のはずれにありました。地方視察で立ち寄った村の怪我人を連れて行きま

した。5 人の子持ちのこの寡婦は 1 週間ほど前にサトウキビ畑で足に大きな刺し傷をして動けなくなっていました。医者へ行く金、約 1,000 円が無いと、ふくらはぎを大きく腫らせたまま寝込んでいたのです。病院の若い女医は屋外に持ち出した台の上で局所麻酔の後、ものの 10 分もしないうちに切開手術を終えました。後日の風の便りは“あの農婦は回復して元気に働いているョ”とのことでした。

ラオス北部の県で学校の先生 120 人の研修会を行いました。多人数、皆さん慣れない体験であることもあって研修中に病人が数人出ました。一人の若い先生は前日から高熱（体温計無し）で寝込んでいます。“目がかすんであちこち痛い、下痢はないけど便は黄色、こんなことは始めて･･･”とて、県病院へ行かせました。1 年前に外国援助で新設された、外から見ると広々として清潔感もある立派な病院です。

付き添ったスタッフは帰ってきて“あんなひどいところ、信じられない！･･”と言います。立派な診察室はあっても医者は不在、看護師は全く知らん顔で仲間とおしゃべり、やっと捜し当てた勤務医は何の問診や診察も無しに“血液検査をする”といって採血し、“夕方に結果を聞きに来い”とのこと･･･。結局、患者はもう一晩寝てほぼ回復しました。ラオスでは外国の大学も含め医学部を卒業すれば医者さんです。国家試験はありません。

他の教員研修で近隣病院の医者に話をしてもらいました。保健衛生教育のためです。家族計画、性病、エイズ、マラリア、デング熱もありました。デング熱は日本ではあるのでしょうか。“･･･昔、この病気は皮膚の黒い人のみが罹ると思われていた、1977 年にラオスで初めて患者発生、このときの死亡 500 人、昼中に飛び回る蚊により伝染する、･･･近年東南アジアでは数年に一度流行する、ラオスでは 1999 年の流行が大きかった、効く薬はないのでマラリアより怖く一番深刻な流行病、突然に 39 度ほどの熱が出て後 5 日が死ぬか生きるかの境目、予防は蚊に刺されないこと･･･”でした。ラオスでは 2003 年の 7-9 月が最近の流行だったようです。

首都ヴィエンチャンに救急車はありますが有料です。公務員とその家族には医療保障がありますが一般にはありません。ケガや病気などの入院や医療費は全て自費、友人を含め親戚中でかき集めることになります。入院したときの食事などのまかないも家族のしごとです。首都ヴィエンチャン郊外にセタチラート病院があります(**写真２**)。日本が ODA 供与し 4 年ほど前に完成した新鋭の大きな病院です。外から見た限り賑わっていますが、経済的に少し余裕がある人たちは川向こうのタイの病院へ行きます。“レベルが格段に違うから”といいます。

（写真２：セタチラート病院正門）

製薬企業へ一度だけ訪れました。この国立の企業はヴィエンチャン市内にあり、工場と事務所をもつスレート屋根の平屋です。正門脇の玄関を入ったところに製品展示を兼ねた小さな販売所があり、ケースには抗生物質らしい名前のものから、ヴィタミン剤ほか私には分からないものがアンプルや注射器、注射針と一緒に何れも古ぼけて並べてありました。“この工場では 400 種以上の製薬をしている、下痢や解熱剤が多いが抗生物質やヴィタミン剤、漢方薬も作っている”と、旧ソヴィエト連邦の国で薬学部を出た所長が案内して少し奥まで見せてくれました。「点滴用輸液、ラクトース」と表示した 30cm 角の製品入りダンボール箱が数十個積み上げてありました。箱には「･･･保存温度 15－25℃」と表示されていましたが、直射日光が当たっていて 30℃を軽く超えていました。「液が濁っていたら使わないように」とも書いてありました。

手元に得た資料（今年 06 年現在)では、ラオスには製薬企業が 7 社あります。国営 3 、中国とラオス、ヴェトナムとラオス合弁が各 1、ヴェトナム私企業とラオス私企業各 1 です。医薬および医療品の輸出入企業は 26 社、取引き国はドイツやフランス、タイ、ヴェトナム、中国などです。この内一番古い企業は 1992-1993 年とあります。これが創業年なのか登録年なのか分かりません。また資本金や取扱い品目、それらの量も分かりません。何時から保健省がこの種の記録を始めたのか不明だからです。ちなみにこの国が製薬や医薬品の輸出入に関する法令を制定したのは 3 年前の 2003 年です。

製薬レベルではないのですが、ラオスの森の産物が乱獲されて中国やヴェトナム、タイへひそかに、また公然と売られています。プランテーションとして茶をはじめ種々の薬草が栽培され主に中国やヴェトナムへ送られています。　　（この項終り）

Library 図書館だより No.193

≺新着資料案内 ー平成 18 年 5 月 10 日～平成 18 年 6 月 13 日受け入れ≻

図書館で受け入れた書籍をご紹介しています。
この情報は附属図書館の蔵書検索（http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm）の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。
閲覧をご希望の場合は、JAPIC 附属図書館（電話 03-5466-1827）までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
AHFS drug information 2006				
McEvoy,Gerald K. editor	Am.Soc.of Health-System Pharmacists	2006年	3,776p	¥39,312
アメリカヘルスシステム薬剤師会発行の医薬品集。薬効分類順に配列。				
中部病院情報 2006年				
医事日報	医事日報	2006年 2月	793p	¥18,900
毒物及び劇物取締法令集 平成18年版				
毒物劇物安全対策研究会 監修	薬務公報社	2006年 4月	404p	¥1,785
医薬品製造（輸入）承認品目一覧 2005年				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 5月	106p	
医薬情報を調べる人のためのJAPIC医薬資料ガイド 2006年版				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 5月	211p	¥3,150
L'Informatore farmaceutico 2006 66edizione				
O.E.M.F	O.E.M.F	2006年	5分冊	¥78,088
イタリアの医薬品集。ジェネリック医薬品、アレルゲンなども収録。				
日本の新薬ー新薬承認審査報告書集ー 第1巻 中枢神経系用薬				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	791p	¥22,000
日本の新薬ー新薬承認審査報告書集ー 第2巻 末梢神経系用薬、眼科・耳鼻咽喉科剤 他				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	652p	¥22,000
日本の新薬ー新薬承認審査報告書集ー 第3巻 循環器官用薬(1)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	512p	¥22,000
日本の新薬ー新薬承認審査報告書集ー 第4巻 循環器官用薬(2)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	487p	¥22,000
日本の新薬ー新薬承認審査報告書集ー 第5巻 循環器官用薬(3)、呼吸器官用薬				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	455p	¥22,000

書名 著者名	出版社名	出版年月	ﾍﾟｰｼﾞ	定価
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第6巻 消化器官用薬				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	644p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第7巻 ホルモン剤				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	611p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第8巻 泌尿器官剤、外皮用薬				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	603p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第9巻 ビタミン剤、血液・体液用薬、人工透析用薬				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	285p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第10巻 その他の代謝性医薬品(1)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	514p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第11巻 その他の代謝性医薬品(2)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	741p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第12巻 腫瘍用薬(1)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	652p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第13巻 腫瘍用薬(2)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	478p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第14巻 腫瘍用薬(3)、放射性医薬品				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	489p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第15巻 アレルギー用薬、抗生物質製剤(1)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	427p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第16巻 抗生物質製剤(2)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	731p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第17巻 化学療法剤(1)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	603p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第18巻 化学療法剤(2)				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	642p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第19巻 生物学的製剤				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	767p	¥22,000
日本の新薬－新薬承認審査報告書集－ 第20巻 寄生動物用薬、診断用薬、公衆衛生用薬、アルカロイド系・非アルカロイド系麻薬他				
日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2006年 4月	684p	¥22,000
ポケット医薬品集 2006年版				
籠原 徹 著	白文社	2006年 1月	1,054p	¥4,935
ピロリ菌 日本人６千万人の体に棲む胃癌の元凶				
伊藤 愼芳 著	祥伝社	2006年 3月	212p	¥777

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
臨床試験ハンドブック				
丹後 俊郎、上坂 浩之 編	朝倉書店	2006年 3月	772p	¥27,300
最近の新薬 2006（薬事日報版 2006年度版）				
薬事日報社 編	薬事日報社	2006年 5月	334p	¥4,515
先発・代表薬でさがす後発医薬品リスト 平成18年4月版				
医薬情報研究所	じほう	2006年 5月	441p	¥2,940
Spra. Vidal 2006				
medimedia russia	MediMedia Russia	2006年	1,629p	¥12,100
ロシアの医薬品集。ロシア語の商品名に英名を併記。				
STANDARD TEXTBOOK標準麻酔科学 第5版				
弓削 孟文、古家 仁 編	医学書院	2006年 6月	476p	¥6,300
薬事法・薬剤師法関係法令集 平成18年版				
薬事行政研究会 監修	薬務公報社	2006年 5月	1,446p	¥7,980

医薬情報を調べる人のための
「JAPIC 医薬資料ガイド」2006 年版 発行のお知らせ

例年どおり、上記資料ガイドを発行いたしました。

これは JAPIC で所蔵する逐次刊行物（2006 年 4 月現在所蔵の国内雑誌 635 誌、外国雑誌 71 誌）の一覧と、内外の薬事関係資料、世界の医薬品集（54 カ国 156 種）、薬局方等（22 カ国 68 種）、治験薬情報、医薬品の名称集・同義語集、副作用関連情報誌等の資料について解説を加えたものです。

このような資料を収集、保存、公開している国内の図書館はほとんど類をみないこともあり、世界各国の医薬品の概要、適応、安全性、使用上の注意等、さらに価格、市販の実態を調査する際に有用であるとの評価をいただいております。

また、JAPIC 発行の『医療用医薬品集』をはじめ、各種出版物、「iyakuSearch」等のデータベースの紹介、各種サービス料金表も掲載しております。

新しく図書館業務に就かれた方、医薬情報担当者として配属された方をはじめ、大学、病院、行政、企業等の医薬品に関わる方々の参考資料としてぜひご利用ください。

JAPIC 維持会員の業務担当者の方にはすでにお送りしております。
定価 3,150 円（送料別）ですが、JAPIC 維持会員のかたで、追加をご希望の方には本体は無料、着払い宅急便でお送りします。送り先と希望部数を下記 Fax またはメールでお知らせください。

お申込先　Fax No.03-5466-1818

e-mail: tosho@japic.or.jp

(財)日本医薬情報センター附属図書館
Tel 03-5466-1827

情報提供一覧

平成 18 年 6 月 1 日から 6 月 30 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当（TEL.03-5466-1812）までお知らせ下さい。

情　報　提　供　一　覧	発行日等
<出 版 物 等>	
1.「医薬関連情報」6 月号	6 月 30 日
2.「Regulations View」No.130	6 月 30 日
3.「JAPIC NEWS」No.267	6 月 30 日
4.JAPIC「医療用医薬品集」更新情報 2006 年 6 月版	6 月 30 日
5.「医薬品製造（輸入）承認品目一覧」	5 月 10 日
6.「JAPIC 医薬資料ガイド」	5 月 16 日
7.「JAPIC J」No.5	5 月 31 日
<速報サービス>	
1.「医薬関連情報　速報 FAX サービス」No.537－541	毎　週
2.「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Q サービス）」	毎　週
3.「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.1233－1253	毎　日
5.「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.143－146	毎週月曜日
6.「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日
データベース一覧	**更新日**
iyakuSearch　*<http://database.japic.or.jp/>*	
1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 学会演題情報	月 1 回
3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. 一般用医薬品添付文書情報	随　時
5. 規制措置情報	毎　日
6. 臨床試験情報	随　時
7. 日本の新薬	テストリリース中
<JIP e-InfoStream から提供> *<https://e-infostream.com/>*	
1.「JAPICDOC 速報版（日本医薬文献抄録速報版）」	月 1 回
2.「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	月 1 回
3.「ADVISE（医薬品副作用文献情報）」	月 1 回
4.「MMPLAN（学会開催予定）」	月 1 回
5.「SOCIE（医薬関連学会演題情報）」	月 1 回
6.「NewPINS（添付文書情報）」（月 2 回更新）	月 2 回
7.「SHOUNIN（承認品目情報）」	月 1 回
〈JST　JDreamⅡから提供〉　<http://pr.jst.go.jp/jdream2/>	
「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	月 1 回